【後半報告】2026 年 5 月 10 日開催　北大（学寮）１５０周年記念事業　『「クラーク博士と新渡戸稲造」第２部新渡戸稲造編』出版記念講演会―「今問う新渡戸の教育精神『to be』とは」

今の時代の「to be」について恵迪寮生と考える

恵迪寮生の永田楽さん　島村和さん　小田恵大さん　藤田正一氏　甲斐陽輔氏

■前半に続き後半では新渡戸稲造もそこで学んだ学寮（恵迪寮）の寮生並びに会場も交えて藤田正一氏との対話が行われた。恵迪寮からは、永田楽さん（５年目・文学部）、寮長の小田恵大さん（４年目・法学部）、副寮長の島村和さん（４年目・工学部）が登壇した。
司会は恵迪寮同窓会事務局長甲斐陽輔が行った。発言者（敬称略）の語り口に近い形で再現して報告とします。

先ず３名の恵迪寮生が自己紹介を兼ねて講演の感想を述べ、藤田氏がそれに応えた。

永田）藤田先生の２冊の著書を読ませていただき、北大と恵迪寮が歴史の土台の上に連綿と繋がっていて、その土台の上に僕たちがいることを強く感じました。クラーク精神をどういうふうに残していくかということが課題だと藤田先生が言われていますが、自分も同じように感じていて、じっくりと考えていかなければならない課題だと思っています。
島村）本も読んで講演も聞かせていただいて自分が思っていたことを藤田先生がビシッと言い当てて表現されていてすごく嬉しいな、と思いました。クラーク精神を現代の社会で継承していくことは難しいかもしれませんが、自治寮にはクラーク精神を培うような魅力

があることを実感しています。自治寮のような成長の場は貴重なので日本の中でもこういう場が増えてくれたらいいなと思いました。
小田）藤田先生が福沢諭吉の精神と新渡戸稲造の精神の違いというものを比較していて興味深かったです。このことと関係しますが、恵迪寮生は「生き急いで」いないと思います。慶応とかはハイカラの候補と言われますが、北大、特に恵迪寮の場合はバンカラと言われています。こういう言われ方にも歴史的な教育精神の違いがあるのかな、と思いました。
藤田）皆さん、本を読んでくれてありがとう。北大イコール恵迪寮ということだけども、何がイコールかと言うと、よい意味の北大の精神こそ恵迪寮に宿る、ということだと思う。今まで北大が歴史を紡いできて、札幌農学校から北海道大学になるにしたがって札幌農学校の良い面が薄れてきているように思う。北大に赴任する事務官も教授たちも異動があるという意味で大学の運営には深く関わらない。北大の学風を維持しろと言っても無理がある。では北大の中のどこが、あるいは誰が札幌農学校以来の素晴らしい伝統を担っていくのか、精神を継承していくのかというと寮しかないのではないか。学内の寮に学生が住み四六時中そこで一緒に生活することによって新しい世代の寮生に大学の精神が受け継がれるという面がある。そのような形での精神の伝承ができる可能性があるというのは寮しかないのではないかと思います。そういう意味で今回のような企画も非常に有意義ではないかと考えています。

司会「全国から北大に学生が集まるのは札幌農学校の時代からそうではないかと思いますが、恵迪寮では出身も学部も学年も違う寮生が共同生活を行っています。ということは学際的な学びが生活の中にあるとも言えそうです。北大の学寮ならではのエピソードがあれば紹介してもらえませんか？」

永田）恵迪寮は自治寮なので話し合いによって合意形成を行っています。この話し合いの中で様々な人の考え方を知ることが面白いと思っています。自分は哲学科なので前提条件とか言葉の定義とかにすごくこだわるし、法学部の人は例えばこれまでのルールに基づいて議論するのが得意だとか、理系の中でも数学科の人とかはロジカルに考えるとか、みんなの学問のバックグラウンドがその人なりの思考と発言に現れていて、とても豊かな「学び」の環境だと思います。
小田）学部だけではなく部活とかサークルとかにも多様性があってそれぞれがリビングにその日にあったことを持ち帰って話し合うのもすごく楽しいです。最近では資源について学んでいる寮生がいかに我々のスマートフォンとかが都市鉱山としてリサイクルされているか、という講義の話をしてくれたり、獣医学部の寮生が自分がのもうとしている薬についてそれはどういう機序（きじょ）で動いているのか、という話を細かく話して説明してくれたのはありがたかったですね。**機序：その薬が、どのような仕組み・過程で作用するのかという意味**

藤田）私が生活していた恵迪寮でも６人での共同生活だったのだけれども寮費を 10 円上げるのに延々話し合うような経験をしてきた。最近また居住の仕方は見直されているようだけれども、歴史的には人間形成のために寮と大学の教育とを一体化して行うシステムがあり教育効果を上げてきた。日本でもそういう形で自治による共同生活をやっていたが、その後学生運動等があり管理のしやすさが優先されて個室化の方向に向かってきた。しかし、恵迪寮の寮生は複数人で共同生活をすることを自ら選んで現在のような居住の仕方にして来た。こういう寮は日本の中で貴重な存在ではないか。現在は国の方でも共同生活のよさを見直してそういう住み方ができる寮を作りつつありますね。

会場からの発言に恵迪寮生が答えた

会場）戦後、教育基本法の制定に見られるような民主主義の基本的な理念や方向を創った人たちの中には新渡戸稲造や内村鑑三の教え子たちがいた。このことは札幌農学校の教育精神が日本の戦後の民主主義に大きな影響を与えたと言えるのではないか。一方、最近は国立大学も法人化され予算も減らされている。武器輸出も解禁され憲法も変える動きがあるが、寮生のみなさんはどのようなことを思っているのだろうか。

島村）私は東京出身で、藤田先生の言われる「to do」が重んじられるような雰囲気をすごく感じていて、それがちょっと苦手で北海道に来ました。結果を出すだけじゃなくて自治寮の恵迪寮という自由な環境で、また、ゆったりと流れる北海道の自然に囲まれて「自分がどういうふうに生きていったら幸せで、人生で何をしたいのか」ということを考えました。日本の政治が行われている東京は「to do」が重んじられる社会で、こういう時間がないと感じています。このことが日本人を窮屈にしているんじゃないかなと思います。恵迪寮の自治であったり、北海道で住むということであったり、もう少しゆっくりと時間を過ごすことで、戦争をなくすとか日本人が幸せに生きていくためにどうすればいいかを考えることが出来るのではないかと思っています。返答になってなかったらすいません。

小田）民主主義という観点から言いたいことがあるのですが、恵迪寮の自治は、僕は民主主義の学校だと思っています。しかも理論じゃなくてすごく実践を学べるのかな、と思っています。物事の決め方でも全会一致という方法もあれば、多数決という方法もあり、そういう事を自治の活動の中で実践的に学べるので、そうして培った民主主義精神といったものを次の世代に引き継いで行けるのではないかと思っています。答えになっていなかったような気もしますが。

司会）ありがとうございます。人間性や社会性を育むといった、人格の形成につながるような「学び」が恵迪寮の生活の中にあることに気づかせてもらえるような発言だったと思います。会場からいかがでしょうか。

会場）1979 年の入寮ですが、自分も恵迪寮生として一般学生からは冷ややかな目で見られ

ることが多々ありました。だけど俺は俺、俺たちは俺たちだと思っていた。今の現役の諸君は北大の中では数的にはマイノリティだと思うけども、どのように見られていると意識していますか。あるいは寮生以外の学生と接していて彼らに影響力を与えているということがあるとすればどのようなことだろうか？

島村）目線に関しては「ああ恵迪寮の人なのね」みたいな感じで冷ややかなところもあるんですけど、別に仲良くなれば個人として接してくれるのであまり気にはならないです。あとは恵迪寮の自治にすごく感動されることもあって、例えばサークルの長のような学生からサークルでも同じような問題を抱えているときに「恵迪寮ではこうしているよ」みたいに伝えると「そこまで考えていてスゴい！」と言われることもあります。サークルでも寮でも考えなきゃいけないことはあるのでお互い学びあったりしています。

小田）僕の体感としては、恵迪寮の共同生活の中で培われるノリの良さみたいなものは恵迪寮生とかかわりのある人の中では肯定的に受け止められているのかなと思っています。自治に関しては島村さんの友人のように分かってくれる人もいれば、「恵迪寮って自由でチャランポランとしたところなんでしょ」みたいに思っている人もいるので、結構ちゃんとやっているんだよっていうことを伝えて、恵迪寮の魅力を伝えていければな、と思っています。

会場から次のような感想が寄せられた

会場）新渡戸稲造の教育精神についての講演とそれに引き続き今の恵迪寮生のみなさんのお話を聞く機会を作っていただき感謝いたします。藤田先生はクラーク博士を通じて北海道大学の深いところに流れている精神がどういうものなのか、その大切さを一人でも多くの人に知っていただきたいという思いでこの本を書かれたのではないかと思います。私も若いころ人生の目的っていったい何だろうと思って図書館に通って本を読んでみたり、そういうことを教えてくれる大人がいないかなと思って、そういう方を訪ねたりして、それで古い本の中から自分が追い求めている方たちに出会ったりすると嬉しくて、生きている人間ではないですけれども本を通じて古い人たちと心の交流をしていた学生時代でした。その中に内村鑑三や新渡戸稲造という方がいました。恵迪寮同窓会の皆さまには今日の講演やこのやり取りを一人でも多くの方に伝えていただきたいと思います。これからの将来ですとか世界の平和につながる鍵が眠っていると思います。私も平成遠友夜学校で２０年間学び続けてそう確信しています。※平成遠友夜学校：新渡戸の創設した遠友夜学校に範をとり、学生ボランティアが世話役となって運営する無料の市民講座。2005 年、獣医学部教授だった藤田正一が立ち上げ、校長を務める。現在は学生ボランティアがいないため、市民ボランティアの協力を得て運営している。

会場）今の北大や日本の状況に対してクラーク先生や新渡戸稲造先生が蘇ったら何という言葉残すのかなと、お話を聞きながら思いました。というのは、先ほど「Be gentleman」という言葉で、学生を外的な規則で縛るのではなく、内的倫理に基づいて行動できるようにするといった話をされたと思います。教育で学生の知識を高めることを目的とするのではな

く、学生の行動のモチベーションみたいなところを増したいということであれば、現代の教育環境はアンマッチしているかなと思っています。藤田先生の体の中にはクラーク先生と新渡戸先生が住みついているのではないかと思いますので（笑）、何という言葉を残されるだろうか教えていただきたいです。
藤田）即答しろというのは難しいですが、私たちはいかにあるべきか、君たちはどう生きるのか、それを学生たちに問いたい。しかしそれは答えを与えちゃいけないと思うんです。それは自分で解決するもの、人生をかけて問い続けるものだというふうに思うんですね。
学生さんたちが大学に知識を得ようとして来るということがもうこの時代では違うのではないかと思います。知識はＡＩが人間以上にものすごく蓄えるわけですから、自分たちがどう生きるか、どうやってＡＩを生かすのか、そういうことを考えていく人間にならないといけないというふうに思います。
永田）僕はこの４年間を北大の学生として振り返る経験になったかなと思います。北大に通底している理念というものに対してもっと敏感になった方がきっといいのだろうな、という気がしているので、この本を読んで僕はクラークさんと新渡戸さんに怒られているような気分になりました。
会場）藤田先生と永田さんの話を聞いて僕は反省したのですが、僕は医学者として「to do」は教えることが出来るのですが「to be」を教える教育者としては不十分だったなと思っています。「to be」も教えられるような存在にいつかなりたいなと思っています。ありがとうございました。（拍手）

司会）多くのご意見ご感想を頂戴し、新渡戸稲造の教育精神について様々な観点から考えることが出来たと思います。札幌農学校や新渡戸稲造の教育精神が戦後に伏流水のようにその価値が評価されたように、「to be」について考え続けることが今の時代に大事なのではないかと考えます。本日は藤田先生、登壇していただいた恵迪寮生の皆さん大変ありがとうございました。（拍手）

文責：恵迪寮同窓会事務局長　甲斐陽輔